

第 2 章

課題研究

1 研究の概要

(1) テーマと目的

テーマ「協同学習をベースとした主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業実践」

改訂される学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習過程の改善が求められている。これは、生きて働く知識・技能の習得などにより、新しい時代に求められる資質・能力を育成するため、質の高い理解を図るために学習過程を質的に改善していくことが必要である。第7次研究より協同学習をはじめとする本校の教育活動の成果として、生徒のコミュニケーション力が高められていることが裏付けられた。しかし、協同学習を取り入れることだけが「主体的・対話的で深い学び」を実現する唯一の方法とは言い切れない。

協同学習においては、話し合い活動が多くなるが、これを取り入れた授業実践は非常に多く、そこでは「対話的な学び」が深められた。また、生徒の興味・関心をくすぐるような題材や教材を用いた授業では「主体的な学び」が実現していた。しかし、協同学習によって「深い学び」が実現できていたのかどうかを検証するには至っていない。

よって第8次研究では、これまでの「協同学習」をベースとしつつ、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業展開や指導方法、教材教具を工夫することで「深い学び」を考察し実践することを目的とする。

(2) 仮説

協同学習をベースとした主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業実践を行うことで、生徒の課題解決能力を高め、キャリア発達を促すことができるのではないかと仮定する。

(3) 研究の方法

① 個人による授業実践

学年内の各教科・形態で担当する授業を割り振り、授業実践を行う。(表1) その際、第7次研究の「協同学習授業マニュアル」や「グループ研究の成果と課題」をもとに、1コマの授業の中で協同学習をベースとした学習内容を計画する。MTは「学習指導案(今年度研修部が作成した様式)」(別紙1)を使用した授業実践と「振り返りレポート(MT用)」(別紙2)を作成する。STは、MTが作成した学習指導案を受けて行った指導に対する「振り返りレポート(ST用)」(別紙3)を作成する。研究授業の際は各学年の教職員2名と管理職のいずれか1名が必ず参観し、「授業参観者アンケート」(別紙4)を記入し授業者に渡す。進路指導等で外勤の職員もSTとして授業実践に当たる。

		1 学年	2 学年	3 学年
国 語		亀田	海田	成田
数 学		高山	村瀬	高田
芸 術	音 楽	—	—	石田
	美 術	泉谷	—	—
保 健 体 育		津村	中市	—

生活単元学習 総合的な学習の時間		山本	田中（博）	工藤
作業学習	窯業科 産業科	内田	初山	田中（龍）
	農業科	西脇	小原	大槻
	生活家庭科 家庭総合科	小林	村瀬	木田

表1 学年別授業担当者一覧

② 教科・形態部会によるグループ研究

個人による授業実践でまとめられた「学習指導案」と「振り返りレポート(MT用)」、「振り返りレポート(ST用)」、「授業参観者アンケート」を基に、その教科・形態ごとに主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導についてまとめていく。(まとめ方については詳細が決まり次第全体周知する。)

(4) 研究の推進日程

個人の授業実践は、6～11月の中で学年ごとに計画を立てて行う。「学習指導案」と「振り返りレポート」は、作成するごとに研修部へ提出(授業実践後1週間以内)する。研修部で取りまとめたレポートについては、学年の各教科・形態のチーフに渡す。その後、取りまとめたレポートを基に「深い学び」についての実践をまとめる。(12月中にまとめたものを提出)

2 研究の実際、成果と課題

(1) 個人研究

① 個人研究の手順

各学年で全教科・領域等の研究ができるように研修部が中心に割り振りをした。授業者には、「主体的・対話的で深い学び」の観点と共同授業者の活用の仕方を具体的に記載した学習指導案の作成、授業実践後の振り返りレポートの作成を行った。学習指導案の作成にあたっては、第7次研究で行ってきた協同学習をベースとして作成をした。第7次研究の中で課題として上がっていた「深い学び」の観点についても、本単元を行うことで、他の場面でどのように生かすことができるのかを記入してもらうことで解消できつつあり、「主体的・対話的」な観点についてもさらに深まりつつある。今年度は共同授業者にも授業研究後に振り返りレポートの作成を行っている。そのためには、授業者の意図とねらいを理解した上で動かなければならないため、授業前の授業者と共同授業者の打ち合わせが自然と増えてきている。しかし、振り返りレポートの中で「もっと授業者と念入りな打ち合わせをしておくべきだった。」や「打ち合わせ不足で授業者の意図とは違う動きをしてしまった。」といった意見もまだ見られた。それを今回気付きとして感じる事ができたことに関しては、振り返りレポートを作成した成果であると考えている。

② 授業研究の推進

今年度の授業研究では、第7次研究時に出た「研究授業での参観者が少なかった。」という課題を受けて今年度は各学年2名、管理職のいずれか1名の計7名が必ず参観できる体制を整えた。各学年の研修部を中心として、参観者が同一教員に偏りが出ずに、全教員（実習助手や介護員含）が参観できるように割り振れたことは成果である。急な生徒指導等で参観できなかった授業研究も多少あったが、概ね7名で参観することができた。また、参観者についても振り返りレポートを「主体的・対話的で深い学び」の観点から項目を抽出し行うことで、授業者の意図やねらいについての疑問点や改善点等も含め、レポートを作成し授業者に還元することが出来たことは成果である。

(2) グループ研究

今年度のグループ研究では、「国語」「数学」「音楽」「体育」「美術」の5つの教科部会に新学習指導要領（パブリックコメント段階）について共通理解を図り、本校で活用している指導内容表の内容の見直し、精査を行った。また、今年度から作成しているシラバスが一目で分かるように単元配列表（案）を作成し、各単元の内容の確認、他教科等との横断的な学習をするために時期の確認、精選を行った。今年度は見直し、精査に留まったが、次年度以降については、実際にそれを活用し、実践した上でさらなる検討が必要となる。しかし、今回の検討事項が精査されることで、教科等横断的な学習のつながりが視覚化されるとともに、指導の時期や内容が明確になり統一した指導ができるのではないかと考えている。

1 学年 国語科 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	学校祭を振り返って (仲間の良いところを伝える)	生徒	家庭総合科1学年 生徒7名
		場所	家庭総合科1年教室
日時	平成30年11月28日(水)1校時	指導者	MT:亀田 ST1:山木

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・学校祭を振り返って作文を書くことができる。
- ・印象に残っていることと、その理由を具体的に文章にすることができる。
- ・他者からの視点も参考にして、考えをまとめることができる。

(本時の目標)

- ・自分から仲間に話し掛け、必要なことを伝えることができる。
- ・仲間の言葉を聞いて、感謝の気持ちや感想を伝えることができる。

2 生徒について

- ・時系列で出来事をたどることはできるが、具体的な文章を書くことが難しい生徒もいる。
- ・相手の話した内容を聞いて、それに対する答えを返すなどの会話を苦手とする生徒が多い。
- ・自分の長所に気付いたり、認めたりする事が苦手な生徒が多い。

3 指導計画

第1回 11月21日 : 「学校祭を振り返って」①自己の振り返り ワークシートの記入

第2回 11月28日 : 「学校祭を振り返って」②(本時)仲間と伝え合う

第3回 11月29日 : 作文作成①

第4回 12月5日 : 作文作成②

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

① 主体的な学びについて

- ・具体的な文章を考えやすくするために、振り返りのワークシートを参考にして、書きたいことの焦点を絞る。
- ・インタビューのルールに「自分から話しかける」という項目を設けることで、自主的に会話することが苦手な生徒も自分から話しかける状況を設定した。

② 対話的な学びについて

- ・相手の良いところ伝え、それに対する感想を伝えるという生徒同士の対話の時間を設定する。

③ 深い学びについて

- ・インタビュー活動で得た情報を参考に、自己の視点だけではなく、他者の視点を参考にした文章を考えられるようにする。

5 期待できる指導の効果

- ・出来事をまとめることや、参考となるものを活用することで、自分の考えをまとめやすくなることを知ることができる。
- ・仲間から自分の良かったところを聞くことで、自己肯定感や自己有用感を高める。

※ 授業を振り返って

生徒同士の対話、教師と生徒の対話を授業の中に入れることができた。生徒同士の対話、教師と対話する活動によって、自分の考えを言語化するということを意識して授業をすることができました。

一方で、活発な生徒同士の対話を生むために、コミュニケーションのルールを付け加えなかったことが、メリハリのない活動や、マナーの悪い場面を作ってしまった面もあると感じる。こういった活動の際には、深い学びにもつなげる要素としてのルールの設定を考えられるようにする。

自己肯定感や自己有用感を高めるためには、こういった活動を定期的、継続して行うことが重要であると感じた。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 本時の説明 今回の作文に関する決まり 	<ul style="list-style-type: none"> 日直が挨拶をする。 本時の内容を確認する。 前時に使用したワークシートを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日直に挨拶するように指示する。 前時に使用したワークシートの内容を振り返り、作文を書くときの参考にすることを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習の準備が整い、視線をMTに向けているかを確認する。 ワークシートを見ているかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート PPT
<p>※本時の内容と、今回の作文の決まりについて</p> <ol style="list-style-type: none"> 「仲間の良かったところ」に記入したことを、インタビュー活動で伝え合う。 前時で記入した「自己の振り返りワークシート」と今日のインタビューで得た「仲間からの言葉」を参考にして作文を書く。 <p>作文の決まり</p> <ul style="list-style-type: none"> 作文は最低2枚以上、できるだけ具体的に書く。 締め切りは、12月5日の国語の授業の終了時まで。 					
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> 会話する活動のルールと説明 MTとSTが見本を見せる。 会話する活動 	<ul style="list-style-type: none"> 会話する活動のルールを知る。 教師の見本を見て、会話の始め方や、自然な会話の仕方を知る。 会話する活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 板書されている本時のルールを説明する。 STに話し掛け、必要な事を伝える。 20分間の計時を行う。 困っている生徒がいれば、会話のヒントを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> MTの話を理解しているか確認し、必要であれば個別で説明する。 MTの言葉に対して、一言お礼と感想を伝える。 困っている生徒がいれば、会話のヒントを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート

	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート記入 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の言葉を聞き、思ったことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布し、感想を記入することを伝える。 記入した生徒から MT に確認後、作文用紙をもらい作文を書き始めることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 何を書いていいか分からない生徒と、会話をしながら記入のヒントを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> MT の話を聞く。 日直が挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動についての総評と次時の活動内容を伝える。 日直に挨拶するように指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> MT に視線を向けているかを確認する。 生徒の机上が整い、視線を MT に向けているかを確認する。 	

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭を振り返って (仲間の良いところを伝える)	生徒	家庭総合科1学年 生徒7名
		場所	家庭総合科1年教室
日時	平成30年11月28日(水)1校時	指導者	MT:亀田 ST1:山木

① 主体的な学びについて

前もってワークシートに内容を記入し、それを参考に話をしたため、あまり最初の会話に困ることがなかったことで、教員の指示や助言がなくても会話を進めることができていた。

この単元の目的は学校祭の作文を書くことであり、普段自分で文章を考えることが苦手な生徒にとって、作文の話題の一つにすることができた。一方で、最初の目的でそのことを提示しているが、この活動と作文を書く活動をつなげて思考することが難しい生徒もいた。

② 対話的な学びについて

生徒同士の対話と教員と生徒の対話の場面を意識して授業を行った。前時では、自分の考えを書き、本時ではその考えを伝え、最後にまた自分の考えを書いていた。その内容を教師と一緒に対話しながら振り返ることで自分の考えをより明確に言語化することを目的として設定した。学級の実態からして、この教師との対話の時間を多く設定することが反省である。ただ、実態差を考慮した支援の度合いに気を配る必要があった。

会話が続かないことも想定し、言葉遣いなどは気にせず、会話に集中することを目的とした活動だったが、ルールがないと言葉が乱暴だったり、メリハリのない活動になっていたりしている状況も発生した。簡単なコミュニケーションのマナーと関連付けて、活動を組む必要があった。

③ 深い学びについて

実際に、作文を書いたときに仲間からの言葉を生かして文章にしている生徒がいた。また、自分の頑張りを人にも認めてもらうことで、自分の頑張りを再確認できていた様子もあった。

授業の目的で作文を書く際にこの活動で聞いたことを活用することを提示しているが、この活動と作文を書く活動をつなげて思考することが難しい生徒もいた。

④ STの活用の仕方について

人数が奇数だったため、空きの生徒と会話の練習をするなどの学習場面を設定することができた。一人一人との対話の時間が確保するためには、STも何人か担当してもらうことで解決できる。その際には、学習の意図を共通理解できているようにする。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭を振り返って 「仲間の良いところを伝える」	生徒	家庭総合科1学年 生徒7名
		場所	家庭総合科1年教室
日時	平成30年11月28日(水)1校時	指導者	MT:亀田 ST2:山木

- ① 主体的な学びについて
ワークシートを参考に話をしたため、会話に困ることがなかった。そのため、教員の指示や助言がなくても会話を進めることができていた。
- ② 対話的な学びについて
生徒同士の対話と、教員と生徒の対話の場面を意識して授業が構成されていた。前時では、自分の考えを書き、本時ではその考えを伝え、最後にまた自分の考えを書いている。その内容を教師と一緒に対話しながら振り返ることで自分の考えをより明確に言語化することができていた。
- ③ 深い学びについて
主体的な学びや対話的な学びから自分の考えや仲間からの言葉をより明確に言語化し、文章で表現できている生徒がおり、深い学びにつながった。
- ④ STとしての動き方について
対話の場面をMTと演示し、生徒個々にイメージをもたせた。また、空きの生徒と会話の練習をするなどの学習場面を設定されており、会話練習を行った。対話の時間(練習)を確保するためには、STも何人か担当して行った。

授業参観者アンケート

授業者：亀田 倫代

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○ 1 学年より

- ・見通しがもてるように、締め切り日を設定する必要があると思います。
- ・例題でも完成したものを出すともっと分かりやすいかと思いました。
- ・話をするときに、相手の顔を見て話をするをルールに入れておくと良いかもしれません。
- ・学校祭でみんなと同じように取り組み、見ていたことだったので、分かりやすく自分の考えや思いを伝えることができる取り組み、内容だったと思います。
- ・事前にルールを明確にすることで、伝えやすくなっていました。

○ 2 学年より

- ・主体的と対話的はすごく盛り込まれている内容でしたが、深い学びについてはあまり感じるできませんでした。
- ・導入段階でのパワーポイントを用いた提示が分かりやすかったです。また、教師が演示したパターン 1～3 も生徒が思考しやすくなる良い手立てでした。
- ・口数が少ない学級だと感じていたが、場を設定することによって、適切に自分からインタビューすることができていた。

○ 3 学年より

- ・自分から話しかけるという決まりがあることにより、自主的に会話する練習になると感じました。生徒の感想の中で、「思った以上に自分のことをみんな見ている」と気付き、今後の生活に良い影響が与えられると期待できると感じました。

○ 管理職より

- ・相手の良かったところを、相手を尊重するような言葉遣いで、分かりやすく丁寧に伝えることができました。
- ・自分で考えることと相手から聞いて考えることのメリハリがありました。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

○ 1 学年より

- ・ST と会話を実際にやってみせるのは良いと思いました。
- ・生徒同士が良く見ている視点を知れて良かったです。
- ・インタビューする前の説明時ほとんど理解していないような反応で、MT の確認にもスルーしていましたが、やってみると徐々にできるようになっていました。意欲的に取り組んでいたのが良かったです。
- ・繰り返し、自分の考え、思いを伝える事が必要だと感じました。

○ 2 学年より

- ・1年の初めはおとなしく、あまり自分から話さない印象でしたが、今回の授業を見て会話を広げようと努力する姿があって良かったです。
- ・作文に深まりが出るよう、他者からの話を盛り込める設定がすごく良いと思いました。

○ 3 学年より

- ・誰と話し終わったかスムーズに思い出せるように、ワークシートにサインしてもらおう等すれば良いかと思いました。目を見て、達成感を感じることもできると思います。

2 学年 国語科 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	グループディスカッション	生徒	農業科2学年 生徒6名
		場所	農業科2年教室
日時	平成 30 年 11 月 30 日(金)3校時	指導者	MT:海田

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・文章の内容を理解し、筋道を立てて自分の考えを述べるができる。
- ・相手の意見を理解し、自分の考えと照らし合わせながら話し合うことができる。

(本時の目標)

- ・設定を理解し、決められた立場を自覚して自分の考えを伝えることができる。

2 生徒について

- ・自分の考えを述べるができる生徒に偏りがある。
- ・周りの意見に同調する生徒が多くいる。
- ・語彙力が少なく、自分の気持ちを伝えることに時間が掛かる生徒がいる。

3 指導計画

- 第1回 10月31日 : グループディスカッション ～自分の意見をもつ～
 第2回 11月1日 : グループディスカッション ～自分の考えをもつ～
 第3回 11月9日 : グループディスカッション ～自分の考えをもつ～
 第4回 11月30日 : グループディスカッション ～自分の考えをもつ～ (本時)
 第5回 12月5日 : グループディスカッション ～自分の考えをもつ～

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

- ① 主体的な学びについて
 - ・意見を述べる前に、一人で考える時間を設ける。
- ② 対話的な学びについて
 - ・小グループで話し合う場面を設け、自分たちの意見を伝え合う。
- ③ 深い学びについて
 - ・就職や実習、学校生活の際に休んだときの他者への負担を気付かせる。

5 期待できる指導の効果

- ・普段の学校生活で、簡単に欠席する生徒が多いため、休んでしまった際の他者への迷惑を考えることができ、授業を休まなくなる。また、将来への意欲付けにもつなげることができる。

※ 授業を振り返って

生徒自身から意欲的な発言が多く見られた。また、自分で考える時間を設定することにより、発表も理由付けがされていた。発言の内容も良く、生徒が主体的に取り組む授業となった。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 学習内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 日直が挨拶をする。 本時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を整え、挨拶をする。 本時の学習内容について説明する。 		
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> 前時の確認 本時の説明 協議 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の行ったグループディスカッションの内容を確認する。 今回のグループディスカッションのテーマを確認する。 <u>テーマについて個人で考えて意見をもつ。</u> <u>グループに分かれて、テーマについて考えを深める。</u> <u>グループごとにテーマについて討論する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> テーマや活動の様子を具体的に話しながら前時の内容を振り返る。 本時のテーマは、「仕事を簡単に休んで良いか良くないか。」であることを伝える。 賛否に分かれて協議を行っていく。 ルールの確認を行う。 時間を設定し、自分の意見をもつようにさせる。 適宜、巡回しながらアドバイスを行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ワークシート タイマー
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめ 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のグループディスカッションについて振り返る。 日直が挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師から講評を行う。 姿勢を整え、挨拶をする。 		

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	グループディスカッション	生徒	農業科2学年 生徒6名
		場 所	農業科2年教室
日 時	平成30年11月30日(金)3校時	指 導 者	MT:海田

- ① 主体的な学びについて
意見を考える際に、一人で考える時間を設定したことにより、主体的に取り組むことにつながった。また、意見を交流する際にも、主体的に意見を述べることのできる生徒が多かった。
- ② 対話的な学びについて
人数の関係でペアになってしまったが、自分の意見について相手に伝えることができた。また、ディスカッションの際にも、共有した意見を述べることができた。
相手の意見を否定せず、受け入れながら自分の意見を述べることができた。しかし、伝える際に長くなってしまい、要点が伝わらないことが多く課題が残った。
- ③ 深い学びについて
休んだ際と同僚や上司への迷惑について具体的に考えることができた。それらを教師から言うのではなく、生徒が考えて発言したことにより、責任感を芽生えさせることができた。

授業参観者アンケート

授業者：海田 健

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○1 学年より

- ・ディスカッションすることで、深く考える機会になっていた。
- ・回数を重ねていたことで、なぜ？何？と理由を考えることができていた。
- ・少ない人数（2人と2人）で意見を言わなければならない状況が責任をもって発言する時間になった。
- ・賛成派と反対派の意見を書くことで、どちらの気持ちも考えるきっかけとなっていた。そして、攻めポイントも考えることができていたように感じました。
- ・ディスカッションしながら、生徒同士が質問をしており、学びが深まっていたと思います。
- ・生徒の会話の中で、「有休が使える。」「ずる休みが。」などという発言が出ていたので、「仕事を簡単に休んで良いか良くないか。」というテーマに加え、休みが決められていたものなのか、それともずる休みを含むのかのルールがあると、もっと良かったと思います。

○2 学年より

- ・どちらの意見も書かせることで、自分の気持ちに気付かせるのが良かったです。
- ・休みがちな生徒も、反対意見を普通に言っていて面白かったです。今後、自分で簡単に休んではいけないと気付けるので深い学びになりました。
- ・ディスカッションでは4人全員が自分の意見を言うことができていました。

○3 学年より

「主体的な学び」

グループディスカッションの話し合いをする前に、自分の考えをまとめる時間が十分に取られていたので良かったです。また、賛否両論の意見を生徒に考えさせたことで、その後のディスカッションがスムーズに展開もできていたので良かったです。

「対話的な学び」

ペアで協力して意見を出し合い、話し合うことで自分や仲間の意見を深めることができていたので良かったです。また、ルールを確認して、それに沿った活動ができていたので良かったです。

「深い学び」

学校や卒業後の就職先で、休むことに対する利点と欠点を考えることができ、深い学びにつながると思いました。テーマが「仕事を簡単に休んで良いか良くないか」でしたが、より深い学びをするために、「簡単に」という文言をなくした方が良かったと思います。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

○1 学年より

- ・起立して挨拶するのが良かったです。
- ・担任と生徒の関係の良さが出ていました。
- ・生徒同士の関係が良いです。
- ・漢字に振り仮名をふっていたのが良かったです。
- ・授業開始時、生徒の緊張をほぐすための海田先生と生徒のやり取りを見ていると、関係性が築けていて、良い関係性だと思いました。
- ・ファシリテーターとしての進め方が良く、生徒が話しやすい環境になっていました。また、話題が変わってきたときにも、海田先生の誘導で話を戻すことができている、良いディスカッションになっていました。
- ・ペアの組み合わせの意図が明確で、生徒のいつもと違う一面を引き出すことができていたと思います。

○2 学年より

- ・MTが早口になるところがありました。少ない言葉でゆっくり話すように心掛けると良いです。

- ・板書がシンプルで見やすかったです。
- ・生徒の記述したことに対してのMTの反応が生徒にうまく伝わっていない印象を受けました。
- ・MTが反対の意見にのりすぎているように感じました。
- ・4人でしたが、とても雰囲気良かったです。

○3学年より

- ・全員がディスカッションしようとする雰囲気があり、活発な授業になっていました。
- ・生徒の賛否が全員同じだったが、「良い」と「良くない」の意見の両方を考えさせたことで、2つのグループで議論ができて、意見が深まっていました。
- ・MTは、生徒に見通しをもたせながら授業を行うことができていました。

3 学年 国語科 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	文章から情報を得る （「やい、とかげ」(3)）	生徒	3学年 生徒8名(グループ3)
		場所	農業科A組3年教室
日時	平成 30 年 10 月 29 日(月)3校時	指導者	MT:成田 ST1:外山

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・文章の内容と登場人物の心情を読み取ることができる。
- ・グループ活動を通して、友達と協力し、自分の役割を果たすことができる。

(本時の目標)

- ・文章の内容を理解することができる。
- ・自分の役割を理解し、友達と協力しながらグループ活動に取り組むことができる。

2 生徒について

- ・教師の説明を最後まで集中して聞くことができる。
- ・目標の達成を目指しながら、友達と協力して取り組むことができる。
- ・分からないことをすぐに質問することが難しい生徒が数名いるため、「困ったらすぐに友達に相談して、それでも分からなかったら教師に聞くこと。」と事前の言葉掛けが必要である。

3 指導計画

- 第1回 10月15日 : 長文の読解 「やい、とかげ」(1)
 第2回 10月16日 : 長文の読解 「やい、とかげ」(2)
 第3回 10月29日 : 長文の読解 「やい、とかげ」(3) (本時)

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

- ① 主体的な学びについて
 - ・決められた時間内に決められた問題を自分の力で解かせる。
- ② 対話的な学びについて
 - ・ペアでそれぞれの役割分担を話し合っ決めてるように促す。
 - ・分からないことはペアで相談するように促す。
- ③ 深い学びについて
 - ・作業学習でも行っている友達との話し合いの中で、役割分担をしたり、一つの意見にまとめたりするように促す。

5 期待できる指導の効果

- ・自分のやるべきことを、最後まで責任をもって果たすことができるようになる。
- ・自分の意見を相手に伝えながらも、相手の意見を取り入れることで、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようになる。

※ 授業を振り返って

本時では、説明文を読むことや友達の意見を聞くこと、友達と話し合ったことなどを一つにまとめて書くことを中心として授業を行った。読む力や聞く力、書く力はしっかりと身に付いてきているが、複数の意見を友達と話し合っ一つにまとめる力がもう少し必要であると感じた。今後は、国語の授業だけでなく、他の教科・領域においても話し合い活動をより取り入れ、協力しながら複数の意見を一つにまとめる経験をさらに積み重ねていくことが必要であると考える。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 本時の確認 前時の確認 本時の目標の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 始めの挨拶をする。 前時の続きの学習プリントに取り組みを確認する。 前時の学習内容について確認する。 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶を行うように生徒を指名する。 「やい、とかげ」(3)のプリントに取り組むことを説明する。 登場人物や文章内容の振り返りをする。 本時の目標を提示する。 ペアでの話し合いでは、必ず自分の意見を発表し、友達の意見も聞きながら進めるように伝える。 各ペアで、答えをホワイトボードに書く係と発表係を決めるように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が姿勢を正しているか確認する。 生徒が聞く姿勢を取れているか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示カード
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> 文章の読解 	<ul style="list-style-type: none"> 学習プリントの文章を一人一文ずつ読む。 学習プリントの問題に取り組む。 <u>一問解くごとにペアで話し合い、一つの答えを導き出す。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 友達に聞こえるように、はっきりと大きな声で読むことを伝える。 一問ずつ解くことを伝える。 ペアで話し合い、一つの答えをホワイトボードに書くように伝える。 分からないことは、ペアの友達に相談し、それでも解決しない場合は教師に質問するように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視しながら、適宜助言する。 机間巡視しながら、適宜助言する。 ホワイトボードに適切な字の大きさと書かれているかを確認する。 机間巡視しながら、生徒から質問があったときに答える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習プリント ホワイトボード(4枚) ホワイトボードマーカー(4本)

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 答えを発表する。 ・ 答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペアごとに答えを発表するように伝える。 ・ 発表する時は、友達に聞こえやすい声とスピードで話すように伝える。 ・ 全てのペアが答えを発表した後、正答を伝える。 ・ 赤ペンだけを持ち、間違った場合は赤ペンで訂正するように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姿勢を正して、発表をしている生徒を見ているかを確認し、適宜助言する。 ・ 生徒が適切に丸付けや訂正をしているか巡視し、適宜助言する。 	
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめ、振り返り ・ 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業者の話を聞く。 ・ 終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習の取り組みについて講評する。 ・ 挨拶を行うように生徒を指名する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が聞く姿勢を取れているか確認する。 ・ 生徒が姿勢を正しているか確認する。 	

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	文章から情報を得る (「やい、とかげ」(3))	生徒	3学年 生徒8名(グループ3)
		場所	農業科A組3年教室
日時	平成30年10月29日(月)3校時	指導者	MT:成田 ST1:外山

① 主体的な学びについて

長文読解のワークシートに取り組みさせた。話し合い活動の前段階として、1問ずつ一人で解く時間を与えた。また、自分で解いた解答を後に話し合い活動で必ず発表し、ペアで一つの解答にまとめることも事前に説明した。話し合い活動で自分の解答が必要になることを認識することで責任感が生まれ、一人一人が主体的に問題を解くことができていた。

② 対話的な学びについて

自分で解いた解答をペアで発表し合い、話し合っ一つの答えにまとめることのできるグループもあったが、ペアで発表はし合っても十分に話し合わないまま急いでまとめてしまうグループもあった。活動する前の注意事項として、友達の意見をしっかりと聞き、意見を取り入れながらまとめるように説明していたが、生徒全員に順守させることができなかつたことが反省点である。今後は、生徒の活動をより細部にわたって観察し、的確な言葉掛けをしていきたい。

③ 深い学びについて

これまでの作業学習において話し合い活動を経験してきたことで、役割分担を決めることはとても迅速であった。しかし、友達の意見を話し合いの中で一つにまとめることは不十分であったため、より経験と学習の積み重ねが必要であると感じた。今後は、生活単元学習やホームルーム活動においても話し合い活動をより多く取り入れ、友達の意見との共通点や相違点に気付き、協力しながら一つの意見にまとめていくことの楽しさを感じられる授業作りに努めていきたい。

④ STとしての動き方について

生徒の姿勢を正すこと、授業中の私語は慎ませること、読みやすい字で発表用のホワイトボードに書かせることなど、授業前にSTと役割分担を確認してから取り組んだ。その結果、生徒の授業への集中力が増し、円滑に授業を進めることができた。今後も、事前にSTと役割分担を確認する時間を必ず設け、前時の振り返りをしながらともに授業改善に努めていきたい。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	文章から情報を得る （「やい、とかげ」(3)）	生徒	3学年 生徒8名
		場所	農業科A組3学年教室
日時	平成30年10月29日(月)3校時	指導者	MT:成田 ST1:外山

① 主体的な学びについて

題材は「やい、とかげ」という文章の読解問題で、まず生徒一人ひとりが問題に取り組んだ。その後2人ないし3人のペアとなり、自分の解答を発表し合った。ペアの人数が少ないので、発表する場合も相手の解答を聞く場合も責任をもって取り組む意識が生まれた。また、ホワイトボードに記載し他のペアにも発表する学習だったため、まず自分のペアで解答をまとめ、解答が違う場合は自分から質問するという主体的な学びができた。

② 対話的な学びについて

ペアで、記録と発表を分担した。2人ペアの場合はどちらかを自分が行うしかないのでは、他人任せにできないという状況から意欲的に学習に取り組んでいた。違う解答が出た場合、なぜそう思ったのかをお互いに聞き合う時間を取ることができた。集団でのグループワークも必要だが、少人数のグループワークでは役割を担わなければならないことや積極的に学習に参加する姿勢をもつことを学ぶことができ、対話的な学びが深まると感じた。

③ 深い学びについて

ペアの人数が少ないことで、役割を決めたり自分から質問や意見を出したりすることがスムーズに行われていた。また、毎時間同じ流れで学習活動に取り組んだことで、前回うまくいかなかったことから解決策を考えて生かすことができた。「やい、とかげ」を学習する上で、物語の内容を前回からの続きから学べ、生徒自身も物語をイメージしながら課題に取り組むことができ、深い学びにつながっていると感じた。

④ STとしての動き方について

必要に応じてグループに言葉掛けを行うことや、生徒の姿勢を正すことなど、MTと打ち合わせを行って授業に臨んだ。また、ペアの編成も生徒の特性を考慮し、様々な状況を想定することもできた。生徒一人ひとりの学習活動を支援し、MTが円滑に授業を進めることができるよう取り組むことができた。

授業参観者アンケート

授業者： 成田 直浩

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○ 1 学年より

「主体的な学び」

- ・目標の提示が黒板に書かれていたことによって、本時の学習の目的が明確であったことは、主体的な学びにつながっていた。自分の考えを書く時間が確保されていたことで、主体的に思考する時間が確保されていたと思います。
- ・実際の生徒の活動を見て、自分のためや興味・関心のために進んで取り組んでいるような様子は見られなかったように感じました。

「対話的な学び」

- ・ペアでの話し合いが中心となる授業であり、生徒同士の対話をねらった授業であると感じました。
- ・ペアを組んで話し合いを活発に行おうとする様子が見られました。しかし、生徒同士で相談する機会が少なく、もっと意図的に話し合いや意見を出し合えるような発問があっても良かったと感じました。

「深い学び」

- ・最後のまとめで、国語以外の場面と関連付けて話し合うことや、協力することの意義を日常生活につなげていた点が深い学びになったと思います。
- ・意見が全部同じだったこともあり、内容として一つにまとめる必要がなかったため、ここも生徒へ意図的に考えさせる必要があったと感じます。

○ 2 学年より

- ・今日の目標の提示カードがあったことで視覚的に分かりやすく、生徒がやるべきことを理解することができました。
- ・自分の考えを書き→仲間と共有し→答えを一つにまとめて発表する、という流れを生徒が理解して、問題に取り組むことができていました。
- ・やりとりの例を MT が示していたので、ペアやグループで適切にやりとりすることができていました。
- ・今回はペアやグループで同じ答えが出ており、「話し合って、一つの意見にまとめる。」というやりとりは見られなかったが、授業の最後のまとめのときに MT が、国語以外の場面でも仲間と話し合ったり、協力したりすることがあるということに触れていたのが良いと感じました。
- ・ペアでの解答の確認など、書く生徒と発表の生徒に分かれて交互に役割分担して、落ち着いて授業に集中することができていました。
- ・しっかりグループで話し合いや意見交換ができ、一つの解答を出していました。

○ 3 学年より

- ・ペアで話し合うことの連絡や指示が分かりやすく、生徒たちも円滑に討議に取り組むことができていました。
- ・小ホワイトボードの利用が的確で生徒たちも話し合いをまとめやすかったです。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

○ 1 学年より

- ・活発な話し合いにするための工夫があっても良かったと思います。もしくは、発問を変え、個人で考えを深める時間をもう少し多くしても良かったのではと感じました。そうすることで、仲間との対話をするための話すネタも多くなったのではないかと思います。
- ・今回ペアでの学習活動を行っていましたが、答え合わせの際の話し合いを実際に聞いてみると、お互いが答えを言い合って終わりになっているグループが多く、話し合いというよりも確認の場になっていたように感じました。もっと、ペアで話し合いを活発にするのであれば、問題の部分を生徒が考えるような内容（本人が感じたことやこの題材について読んでどう思ったかなど）にすることで、お互いの意見が生まれ、より活発な話し合いをすることができたのではないかと感じました。答えではなく、「なぜ」「どうして」の部分を話し合えるといいと思います。

- ・途中、教師から生徒の発問がありましたが、そこをペアで考えさせるのも一つの方法かと思います。
- ・ST の動きとして、生徒からの相談がある前に、言葉掛けをしまっていることがあったため、事前にルールを明確にしておく必要があったと思います。(分からないことがあるときは、ペアで考え、それでも分からなければ教師に相談するなど。)
- ・生徒が発表しているときに、ペンを触っていたり、問題用紙を見ている生徒もいたりしたため、何か発表があるときは、まずは「手を止める。」「相手を見る。」などのルールが必要だと感じました。教師が話をしているときも同様に感じました。
- ・本時の目標を掲示していましたが、それに対しての生徒自身の振り返りや他者評価があっても良かったと思います。それを行うことで、生徒の考え方や認知の仕方についてこちらも知ることができると感じます。
- ・役割分担について、もっと生徒に任せてしまってよかったのではないかと感じました。どうしても教師が先に言葉掛けや手を出してしまうことがあるため、生徒はヒントがある中での活動中心になっている気がします。

○ 2 学年より

- ・役割分担では、問題ごとに発表者を代えることで偏りなく分担することができており良かったです。発表も落ち着いてできていました。
- ・机をグループやペアでくっつけていて分かりやすい配置であったが、お互いのホワイトボードが見えづらいことがありました。
- ・今回はペアやグループで同じ答えが出ていたので、もう少し違う答えが出て、話し合っって一つの意見にまとめるところを見てみたかったです。(4つ目の問題が時間切れになり、残念でした。)
- ・MT→各グループ (3 グループ) 目配りができ、丁寧な指導ができていました。

○ 3 学年より

- ・授業で机の形態を変えて、MT が生徒を見渡せる状態は良いなと感じました。
- ・生徒が答えを発表するとき、立って発表したり、何故この解答をしたりしたのか理由もあれば、発表のときに聞いても良かったのではないかと思います。
- ・授業の流れや段階が細かく分かりやすく感じました。
- ・生徒たちが落ち着いて参加しており、本時の展開に沿った授業が行われていました。

1 学年 数学科 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	時間の計算	生徒	農業科1学年 生徒8名
		場所	農業科1年教室
日時	平成30年11月28日(水)2校時	指導者	MT:高山

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・計算に必要な情報を整理することができる。
- ・四則計算を活用して、計算することができる。

(本時の目標)

- ・答えを導き出すために必要な情報を仲間と考えることができる。
- ・四則計算を活用して、時間の計算をすることができる。

2 生徒について

- ・作業学習や清掃活動などで時間を見ながら活動に取り組むことができるようになっているが、時計を見て、すぐに時間を答えられる生徒と時計を見ながら数えて時間を答える生徒が混在している。
- ・話し合いでは、発言をする人のみで進めてしまうところがあるが、徐々に自分の意見を言うことができるようになってきている。

3 指導計画

- 第1回 10月17日 : 時間や時刻の基礎①
 第2回 10月18日 : 時間や時刻の基礎②
 第3回 10月24日 : 1日の動き
 第4回 10月25日 : 時間の見通し①
 第5回 10月31日 : 時間の見通し②
 第6回 11月7日 : 時間や時刻の復習
 第7回 11月8日 : 時間や時刻テスト
 第8回 11月28日 : 時間の計画を立てる (本時)

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

- ① 主体的な学びについて
 - ・清掃活動の際に、担当箇所の時間を計時する。(事前)
 - ・事前に計画し、計時した時間が適切だったのかを個人で振り返る。その際、その理由や原因を振り返り、原因を基に改善策を考える。
- ② 対話的な学びについて
 - ・計時した時刻をグループで共有し、どのように計画をすると時間内に清掃を終わらせることができるのかを話し合う。
- ③ 深い学びについて
 - ・時間や時刻の基礎を学び、清掃活動や作業学習、生活単元学習の掲示物を作成するときなど様々な場面で活用できるように設定する。
 - ・本時で計画したものは清掃活動で実施する。

5 期待できる指導の効果

- ・清掃活動や作業学習、生活単元学習の掲示物を作成するときなど様々な場面で活動に掛かる時間を考え、計画を立てることで活動の見通しをもてるようになる。また、その結果、時間内に活動ができるようになる。
- ・計画を立てることの大切さに気付く。

※ 授業を振り返って

時間や時刻の基礎を学び、清掃活動における時間の活用について、計画、実行、振り返りをしたことで、一連の流れを経験した。その結果、計画を立てることの必要性を実感させることができた。時間内に活動するためにはどうすると良いかを話し合うことも増え、時間内に清掃活動を終わらせることも増えてきた。しかし、指示理解をすることに課題がある生徒が多いため、説明の仕方には工夫が必要である。また、ワークシートにも工夫が必要であると感じた。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 20分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 本時の学習内容 個人の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 日直が挨拶をする。 本時の学習の流れを確認する。 ①個人の振り返り ②清掃活動の計画を立てる 事前に計画し、清掃時間に計時した時間設定が適切だったのかを振り返る。その際、その理由や原因を考える。 時間設定が不適切だったものについては、原因を基に改善策や適切な時間設定を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日直に指示を出す。 姿勢が正しいか、机上が整理されているかを確認する。 本時の流れを板書する。 ワークシート①を配布し、個人の振り返りでのルールを説明する。 		<ul style="list-style-type: none"> ワークシート① 掃除時間チェック表
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動の計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> <u>グループに分かれ、清掃活動の計画を立てる。</u> ①座席移動 ②計画の立て方の説明を聞く ③<u>グループで相談し、計画する</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動のグループに分かれて着席するよう指示をする。 ワークシート②を配布し、計画するためのルールや清掃活動でのルールを説明する。 		<ul style="list-style-type: none"> ワークシート②

			<p><清掃活動のルール></p> <ul style="list-style-type: none"> ○15時05分から、教室で反省を開始できるようにすること。 ○確認の際に汚れを見つけたら、やり直すこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いをする際、事前に使用した清掃時間チェック表を見ても良いことを伝える。 ・机間巡視しながら、必要に応じて助言する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・清掃時間チェック表
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間内に清掃活動を終わらせるためには、役割分担をすることやどのくらい時間がかかるのか見通しを立てることが必要であることを知る。 ・日直が挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の清掃活動の様子や作業学習での取り組みを例に出して説明し、次回の清掃活動につなげる。 ・日直に指示を出す。 ・姿勢が正しいか、机上が整理されているかを確認する。 		

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	時間の計算	生徒	農業科1学年 生徒8名
		場所	農業科1年教室
日時	平成30年11月28日(水)2校時	指導者	MT:高山

① 主体的な学びについて

本時の前に清掃予定時間を考え、清掃活動時に担当箇所の時間を計時した。そのため、予定時間が適切だったのか、若しくは時間が足りなかったのかを個人で振り返ることができた。また、適切だった理由や不適切となってしまった原因を振り返ることもできた。今回の活動以外でも、振り返りの学習を行っているため、個人で振り返ることができたが、教師から「ここはなぜ難しかったのか。」と問わなければ答えられない生徒もいた。また、時間が足りず、全ての活動を振り返ることができない生徒も存在した。そのため、振り返りに使用したワークシートの内容を検討する必要がある。

② 対話的な学びについて

計時した時刻や反省を基に、グループで共有し、どのように計画をすると時間内に清掃を終わらせることができるのかを話し合った。学習活動全般を通して、話し合い活動を行ってきたことで、本時も話し合いをスムーズに行うことができた。今後、より深い話し合いにするためには、話し合いのテーマを絞ることやグループの構成に配慮が必要である。

③ 深い学びについて

清掃活動を題材として取り入れたことで、清掃活動での見通しの立て方を考えることができた。また、時間に間に合うためにはどうすれば良いのかを考えるための会話が増えた。

今回、清掃活動の計画を立てる前に、時間や時刻の基礎についての学習を行った。指定された時刻から何分前や何分後をすぐに答えることができる生徒が少なかったため、そのような基礎的な知識についての習得が必要であった。時間や時刻の計算をすることで、清掃活動に限らず、生活単元学習や作業学習、ホームルーム活動においても、時間を意識して活動できるようになってきた。

④ STの活用の仕方について

本時ではSTを配置していなかった。配置する場合には、指示理解が難しい生徒が多いため、STに机間巡視してもらい、生徒の理解度を確認してもらったり、補足説明をしてもらったりする。

授業参観者アンケート

授業者：高山 愛望

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○ 1 学年より

- ・事前の準備（計時プリント）がされていて良かったです。
- ・時間を確認できることが就労に役立つことを指導できていました。
- ・生徒に考えさせる時間が設定されていました。そのことで深く考える機会ができていました。
- ・普段行っている清掃活動が題材となっていたので、生徒は具体的で主体的に個々で考えることができていました。
- ・個々で考えたことを基にペアで対話的な学びができていました。

○ 2 学年より

- ・時間についての意識は、どの活動においても見通しをもつことができる大切なことなので自ら考え、グループで話し合うことでの意識付けになると思いました。
- ・時間についての学びなのでワークシートの記入時間は何分まで、グループで話し合う時間は何分までなど、最初に伝えてもいいのかと思いました。導入時間は予定より 5 分強時間がかかっているところと、グループでの話し合いが最後まで終わらなかったところがありました。掃除の時間のことを考えている学習だが、本時の行程を時間どおりに終わらせようという意識はなかったように見えました。終了時間もオーバーしていました。
- ・改善点の相談の際、グループで時間設定の意見を出し合い、相談して行うことができていました。
- ・掃除時間の計算をして、仲間で時間を共有することで、見通しをもちやすく計画的に掃除に取り組むと感じました。

○ 3 学年より

- ・生徒間で信頼し合っている様子が感じられたので日頃の学習の成果が出ているのかと思いました。そのため、スムーズに対話的な学びにもっていくことができていたと思います。また、清掃活動という日常で関わることを題材に挙げることで、より身近に感じやすく、深い学びにつながると感じました。
- ・対話の時間をしっかりととって、生徒に話し合わせることは良かったが、グループで決まったことを発表する時間があっても良いと感じました。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

○ 1 学年より

- ・質問を受けたとき、一旦手を止めさせて注目させることができていました。
- ・教師と生徒の日常からの信頼関係を感じました。
- ・ホームルームの掲示が丁寧で整理整頓ができていました。
- ・個の考えをきちんと整理してからペアでの対話的学習へと段階を踏んで授業が展開されていたので、深い学びにつながっていたと思います。

○ 2 学年より

- ・清掃の各項目で時間を考えた取り組みをしていました。時間を意識することは手早さを意識するのか丁寧さを意識するのか普段の清掃でポイントを伝えられると良いと思いました。（今回の授業とは別で取り組んでいると思います。）
- ・考えている（悩んでいる）生徒に質問をする前に声を掛ける様子がありました。考える機会と発言の機会をつくってもいいかと思いました。
- ・先生へ質問するとき、机に肘をつきながらしている生徒がいました。指摘する必要があったと思います。
- ・緊張している生徒をほぐすようなコメントは良いと思いました。
- ・改善点→授業途中でも、まとめの時間をしっかりととり、本時の感想や次回の説明を行った方が、見通しをもたせやすいと感じました。

○3学年より

・数学の授業中ではなく、清掃の時間も使って学習したことを活用できるのは実践的ですが、とても良いと感じました。ホームルームごとに教科の学習を行っているからこそできることだと感じました。(3学年は習熟度別や進路業種別で行っている。)

2 学年 数学科 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	学校祭の製品の仕組み(長さ・図形)	生徒	家庭総合科2学年 生徒8名
		場所	家庭総合科2学年教室
日時	平成30年9月19日(水)4校時	指導者	MT:村瀬

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・図形を組み合わせることで製品の形ができることを理解できる。
- ・長さを測り、図形を書くことができる。

(本時の目標)

- ・長さを測ることができる。
- ・正しい長さで型紙を作ることができる。

2 生徒について

- ・おおよその四則計算ができる生徒と2桁同士の足し算や引き算ができる生徒が混在している。
- ・協力して一つの答えを導き出すための話し合いができる。
- ・見通しや全体像を把握することが苦手である。

3 指導計画

- 第1回 8月31日 : 長さの測り方、図形の書き方①
 第2回 9月14日 : 長さの測り方、図形の書き方②
 第3回 9月19日 : 型紙、作り方の図の作成①(本時)
 第4回 9月21日 : 型紙、作り方の図の作成②

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

- ① 主体的な学びについて
- ・作業学習内で使用する型紙を自分で作成する。
 - ・ペアの中で決められた役割を果たす。
- ② 対話的な学びについて
- ・ティッシュケースを解体し、長さを測るときに仲間と確認する時間を設定する。
 - ・ペアで役割分担をするために話し合う。
 - ・型紙を作るための必要な情報をペアで協議し、その後、情報を整理する。
- ③ 深い学びについて
- ・作業学習内で使用する道具を使い、授業を展開する。
 - ・作業学習内で作成した型紙で製品を作る時間を設定する。

5 期待できる指導の効果

- ・作業学習で行っていることの全体像を予想する力を身に付けられる。
- ・ものづくりをする上で、長さを正しく測ること、丁寧に物事を進めていくことの大切さに気付く。
- ・必要な情報の取捨選択ができるようになる。

※ 授業を振り返って

グループの中で役割分担をしたが、早く終わってしまうグループに新たな課題を提示することができず、手持ち無沙汰にしてしまった。すべての工程を知り、工程の始めから取り掛かる経験を積ませることができたが、理解が早い生徒には、新たな課題を用意することで、より経験を積ませることができたと考える。今後は、グループ編成や作業量などを考慮して学習内容を考えていきたい。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・前時の復習 ・本時の学習内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が挨拶をする。 ・前回、長さを正しく測ること、図形の書き方を学習したことを振り返る。 ・本時の学習の流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机上の整理ができているか、姿勢が正しいか確認する。 ・本時の流れを板書する。 		
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・ティッシュケースの型紙作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアに分かれ、<u>ティッシュケースを分解する。</u> <ol style="list-style-type: none"> ①座席移動 ②道具、プリント準備 ③分解・図形作成 ④長さ測定 ・他のグループと測った長さを交流し、正しい長さを確認する。 ・画用紙で自分の型紙を作成する。 ・作成したら、全ての型紙に名前を記入し、大きい順にA、B、Cを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアを提示し、席を指定する。 ・使用する道具とプリントを説明する。 ・ペアの中で分解と図形作成に役割を分けさせる。 ・見本を黒板に提示する。 ・縫いしろの部分も注意して測るように促す。 ・正しく定規が使えているか確認する。 ・各グループに発表させた後、見本の長さを測り、正しい長さを確認する。 ・正しい長さかどうか巡回して確認する。 ・名前が書けているか、確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ティッシュケース×5（見本含む） ・定規8 ・裁縫道具4 ・画用紙（あらかじめ14cmの幅に切ったもの） ・ハサミ ・マジック

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭の製品の仕組み（長さ・図形）	生徒	家庭総合科2学年 生徒8名
		場所	家庭総合科2学年教室
日時	平成30年9月19日(水)4校時	指導者	MT:村瀬

① 主体的な学びについて

1時間の授業の中で、型紙を作成するところまでは到達しなかったが、ペアの中での役割を果たすことは全員ができていた。製品を解体したり、型紙の長さを記入するための長方形を書いたり、自分たちで必要な情報を得るための準備を一人一人が進められた。しかし、解体した生徒と図形を書いた生徒では、解体した生徒のほうが直接製品に触れているため、ティッシュケースを作る工程を想像しやすい環境となってしまった。全員が同じように製品に直接触れられる設定をし、工程を想像した上で自ら学習に取り組めるようにしていきたい。

② 対話的な学びについて

ペアで役割を決めたり、相手に分かりやすく情報を伝えたりすることができ、基本的なやり取りができていた。しかし、役割を果たすことに集中してしまい、ペアの中で学習が進めやすいように工夫したり、自分から役割を探したりして協力するところまでには至らなかった。生徒の中には、次の学習を予測して話し合いをしたペアもあったが、全員出来る環境ではなかった。今後は、人数と役割、活動を増やし、試行錯誤しながら学習が進められる環境を設定したい。

③ 深い学びについて

数学と作業学習を関連させて、授業を行った。家庭総合科の様々な形を組み合わせる一つの製品を作るという性質を利用し、図形と長さを関連させた。実際に、型紙から作るという経験をしたことがなく、今回の学習で、自分たちがミシンで縫うためには想像していた工程より前段階があることに気付くことができていた。また、普段作業で使用する定規を使って、布の長さを測らせたことで、今後型紙を使い、布を裁つときに、布の性質や定規の特徴を考えながら作業に取り組むことができるのではないかと考える。しかし、作業学習では生かすことができて、日常生活で生かすことについては関連が薄いので、日常生活でも活用できる力を教科と作業学習で関連させて身に付けさせていきたい。

授業参観者アンケート

授業者： 村瀬 はるな

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○ 1 学年より

- ・ペアの中で、素早く役割分担がなされていました。
- ・ペア内での対話が成立しており、役割を果たしつつ、協力する姿勢が見られました。
- ・分解も作図も各自が主体的に活動していました。
- ・ペアによっては、折り目の幅も測っており、作業学習に結びつく深い学びになっていました。

○ 2 学年より

「主体的な学び」

- ・途中からであったため、分からない部分もありますが、分担した役割についてそれぞれ取り組んでいたと思います。

「対話的な学び」

- ・2, 3人で活動させることで、活動しなければならない環境になっていて対話的な学びになっていました。

「深い学び」

- ・時間が余った生徒たちは、ダブルチェックしたり、折り返しの分を測ったりしていました。
- ・作業との関連があり、主体的に取り組む様子が見られました。
- ・対話的な確認を重視すれば、チームの間違いはなかったのではないかと思います。
- ・糸切りに時間がかかり、尻すぼみな印象でした。ねらいを達成するためにも残念でした。

○ 3 学年より

「主体的な学び」

- ・ペアで役割を担当させて行っていたので、生徒が主体的に活動できたので良いと思います。ティッシュポーチ（作業で作成した身近な題材）であったので、興味関心も高まったと考えられます。

「対話的な学び」

- ・ペアで役割を決めたり、授業で行わなければいけないことを確認したりすることで、対話的活動ができたと思います。生徒が長方形を書くことに夢中になりすぎて、長さを測定したときの確認があまりできていなかったと思います。ペアで定規の目盛りを確認しながら長さを測定できれば良かったと思います。

「深い学び」

- ・型紙の役割を理解できたと思うので、次の作業学習に結び付けることができたので、深い学びになったと思います。

○ 管理職より

- ・実際に作業学習で使う型紙を教材に用いることで生徒たちは何をすればよいかを理解したり、生徒はイメージをもちやすくなったりすることで、主体的に学習ができる状況作りになっていました。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

○ 1 学年より

- ・作業だと、生産を重視して、細かな部分などは教師が行ったり、簡単に済ませたりすることが多いので、数学でその部分を補うようにすれば、主体的、対話的で深い学びになっていくと思いました。
- ・若干、にぎやかな雰囲気を感じたが、多くの生徒が指示を理解し、学習するための良い環境だったと思います。
- ・家庭科として、とても良い教材で参考になりました。自分の授業にも取り入れようと思います。あり

がありがとうございました。

○2 学年より

- ・生徒の作業スピードによっては、進み方に差ができて時間を持て余している生徒もいました。
- ・定規の使い方を分かっていない人もいたので、確認があっても良かったかもしれません。
- ・生徒の良い気付きをフィードバックしていて良かったです。
- ・「2. 生徒について」の中で、図形や長さについての実態が書かれておらず、「数学」という点において内容が簡単ではなかったかと感じました。
- ・作業学習とのつながりを感じたが、数学的な学びがもっとあれば、生徒の主体性や対話的な様子もさらに見られるのではないかと感じました。

○3 学年より

良かったところ

- ・長さを測定した答えを板書して確認した後、型紙を作成するときに板書した答えを消したことで、プリントにメモする大切さや、対話的な活動を意図的に作ったことがすごい良いと思いました。

改善点

- ・長さの測り方が生徒によってバラバラだったので、正しい測り方の確認か、様々な測り方があるという確認をする場があればもっと良かったと思います。
- ・ペアの机の高さが一緒だったらもっと良かったと思います。

○管理職より

- ・ほどくの時間に時間がかかっていたが、ほどけなかった時の代替教材があると良い。
- ・役割分担が細かすぎると自分のことに集中するあまりにお互いにチェックできなくなる。お互いにチェックできると途中で間違えていることに気付くことができ、対話的な学習につながると思います。

3 学年 数学科 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	四則計算の復習	生徒	農業科3学年 生徒2名
		場所	農業科3年 B 組教室
日時	平成 30 年 12 月 10 日(月)4校時	指導者	MT:高田

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・ 小学校 3 から 4 年程度の数学問題について理解し、正しく答えることができる。

(本時の目標)

- ・ 四則計算と文章問題との関係性について考え、まとめることができる。

2 生徒について

- ・ 2 名とも、北海道立函館技術専門学院を 12 月上旬に受験する。2 名は技専の合格と入学後の計算力の向上をもう一つのねらいとして、数学の授業に意欲的に取り組んでいる。
- ・ 1 名は、ケアレスミスが時々見られるが、落ち着いて数学の課題に取り組むことができる。もう 1 名は、数学に対して非常に苦手意識をもっており、プレッシャーが増すと余計に焦り、めっちゃくちゃな解答になることが多い。

3 指導計画

- 第 1 回 10 月 15 日 : 確認テスト__技専用
- 第 2 回 10 月 22 日 : 計算の練習 1
- 第 3 回 10 月 23 日 : 計算の練習 2
- 第 4 回 10 月 29 日 : 計算の練習 3
- 第 5 回 11 月 27 日 : 力試しテスト__技専用
- 第 6 回 12 月 10 日 : 四則計算のまとめ 1 (本時)
- 第 7 回 12 月 11 日 : 四則計算のまとめ 2
- 第 8 回 12 月 17 日 : 四則計算のまとめ 3

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

- ① 主体的な学びについて
 - ・ 四則計算と文章問題の関係性を、自分で考える時間を設ける。
- ② 対話的な学びについて
 - ・ 仲間の意見を参考にして、自分の考えと合わせてまとめる時間を設ける。
- ③ 深い学びについて
 - ・ 四則計算と文章問題の関係性に必ずヒントがあることを、教師の例示や仲間との話し合いから気付かせる。

5 期待できる指導の効果

- ・ 自分が苦手としている学習で相手の考えを聞くことによって、自分の考えに広がりを持ち、活用できる。
- ・ 実際の生活の場で、同じような計算を求められたときに、文章問題の解き方をヒントにすることができる。

※ 授業を振り返って

今後のために復習を兼ねて題材を設定したが、理解の難しい生徒に対して問題提起の方法や課題量が合っておらず、学習が予定通りに進まなかった。四則計算として 4 つのくくりで行わず、一つずつじっくり取り組むような設定にし、生徒がお互い意見を出せるような環境を作れば良かったと反省している。

2 名しかいないグループなので、今後も相互的な学習を普段から心掛けて授業を行っていきたい。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶 ・ 90 ます計算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どちらかが挨拶をする。 ・ 机上进行整理し、90 ます計算を行う。 ・ 3分経ったらお互いの用紙を交換し、答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒に挨拶の指示を出す。 ・ 前回の用紙を返却後、机上进行整理を指示し、本日の用紙を配布、3分計測する。 ・ 解答を配り、答え合わせをさせる。 ・ 答え合わせ後、回収する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 90 ます用紙 タイマー ・ 解答用紙
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四則計算と文章問題について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章問題の文言から四則計算を組み立てるためのヒントを見つけることを知る。 ・ <u>2名で、「+、-、×、÷」のヒントになる文言のキーワードを探し出す。</u> ・ まとめた結果を発表する。 ・ <u>提示された絵と数字を基に、2名で文章問題を考える。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントを配布し、説明する。 ・ 例を挙げ、「合わせて」などの言葉が四則計算を組み立てるヒントになることを伝え、個人で考えた後、プリントを2名でまとめるよう指示する。 ・ 例を挙げ、それぞれ文章問題を考えさせた後、2名で文章を完成させるよう指示する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート ・ 拡大プリント
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめ ・ 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の学習を振り返る。 ・ どちらかが挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算の基本を再確認する。 ・ 生徒に挨拶の指示を出す。 		

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	四則計算の復習	生徒	農業科3学年 生徒2名
		場所	農業科3年 B組教室
日時	平成30年12月10日(月)4校時	指導者	MT:高田

① 主体的な学びについて

学習の中で繰り返し取り組んできた文章問題について、四則計算の「+、-、×、÷」をどのように当てはめるか、個人で考える時間を設定した。以前から答え合わせをしていた文章問題を集め、その当時のプリントを見直せばヒントが現れるようにしたが、主体的なプリントの見直しはあまり見られなかった。1名は見直しがなくても自分で考えて書き出すことができていたが、数学の苦手なもう1名は、どのように取りかかれば良いのかイメージすることが難しく、困惑していた様子であった。個々への丁寧な働きかけと、提示した文章問題の分量の再検討が必要である。

② 対話的な学びについて

1名はある程度学習の意図を理解していたため、そこからの発信が話し合いでも強みになった。しかし、もう1名は理解が十分でないため、相手の考えを受動的に聞き取るだけになってしまった。アドバイスなどの支援だけでは相手の意見を参考にする面や自分の考えに広がりをもつ面でお互いの能力の差が縮まらず、対話的な学びとしての効果は少なかった。アドバイス以外にも、1名には足し算を中心にし、別の1名には引き算のみに集中してまとめてもらうなど、内容や分量に差異を設けて取り組む必要があったと考える。

③ 深い学びについて

四則計算と文章問題の関係性について、「合計で」や「1人分は」などの聞き慣れた文章から、足し算や割り算などの計算の種類を選んでグループ分けすることによって、式を立てるためのヒントを自分たちで見直すことができた。しかし、本時で予定した内容に最後まで到達しなかったことから、今回は深い学びになったとは言い難かった。今後は、時間配分の再構築や内容の再検討を行い、深い学びにつながるよう努力していく。

授業参観者アンケート

授業者：高田 のぞみ

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○1 学年より

「主体的な学び」

- ・生徒が文章問題について考えて取り組んでいるときに、アドバイスや解決の手がかりになるような言葉掛けを多く伝えていた印象を受けました。そのため、生徒が自ら考える時間が少なくなってしまうように感じてしまいました。そのため、その後の2人での確認の時間があるのであれば、そこまではまず考えさせて、気付かせた方が良かったのではないかと感じました。

「対話的な学び」

- ・お互いの意見を伝え合い深めていくことがねらいであったと思いますが、一方の生徒が相手に伝えていることが多く見られました。そのため、ねらいにもよりますが、お互いの意見を聞いて深めていくことがねらいにあるのであれば、両方が答えることができていると一方的に教えて終わってしまうことになると感じました。

○2 学年より

- ・文章問題の文章を読み取って、(分けるや配るなど) 四則計算を選び出す方法は良いと思った。
- ・自分たちで苦手な文章問題を作るとあるが、逆の発想だと思いました。興味を持たせ、深い学びにつながると感じました。
- ・相談して分からなかった問題を教え合う場面对話的でした。
- ・四則計算と文章問題の関係性を自分で考える時間を設けたことで、「引き算→〇円を払ったおつり」を生徒自ら見付けることができました。
- ・仲間の意見を聞くことで、自分では気付かなかった答えを見つけることができました。
- ・自分一人で関係性を見付けることができない生徒には、教師が助言することで気付かせることができました。

○3 学年より

「主体的な学び」

- ・言葉掛けなしで考えて記入する生徒と言葉掛けを多くする生徒がいて、主体的なだけでなく教師との対話や例示(ヒント)による深い学びの部分も含んでいたように見えた。

「対話的な学び」

- ・得意な生徒は苦手な生徒へ分かりやすく説明する。苦手な生徒はその説明を聞いて、自分なりの言い方に直して、返事をするなど、対話的な学びができていたと思います。

○管理職より

- ・主体的に考えられるように四則計算(加法、減法、乗法、除法)ごとに文章を区切って数字を入れるとキーワードに近づいて考えやすかったのではないかと思います。
- ・黒板に図式化して視覚化するとより理解しやすくなり、問題を解く上での苦手意識が薄れたのではないかと思います。
- ・話し合いはある程度個々の考えを明確にしてから行った方が相手の話を自分と違う意見や自分と同じ意見として聞けると思います。そのようにしないと相手から単に教わるだけになってしまいます。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

○1 学年より

- ・授業の内容として、文章問題の「どうして」「なぜ」を考えられる題材だったため、生徒が自分で考えて、相手と共有して深める内容としてはとても良かったと感じます。ただ、実際に話を深めるときに、話し合いというより一方的に教える場面が多くあったため、話し合いの仕方の工夫があるとより良かったと思いました。

○2 学年より

- ・文章問題の例題で、興味をもちやすい内容が多くて、とても参考になりました。
- ・生徒は落ち着いて取り組んでいた。
- ・四則計算と文章問題の関係性については、「合わせる」、「分ける」などの単純なもの以外にも色々な説明の仕方があるので、文言を探し出すのは少々難しいように感じた。

○3 学年より

- ・MT 一人対して生徒2人という少人数でしたが、生徒の緊張状態を察し、言葉掛けでリラックスさせている点が良かったです。

○管理職より

- ・生徒へ「なぜそのように考えたのか」を丁寧に聞いて、次の答えを導いていたことは良かったです。

1 学年 音楽科 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	器楽 (高い音、低い音がでる仕組みを知ろう)	生徒	1学年 生徒 22名
		場所	音楽室
日時	平成 30 年 11 月 29 日(木)3校時	指導者	MT:石田 ST1:外山 ST2:高山 ST3:津村 ST4:亀田

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・自分の担当する楽器を、責任をもって演奏することができる。
- ・仲間同士で協力して、旋律を演奏することができる。
- ・音列を理解し、音の高低を理解することができる。

(本時の目標)

- ・高い音、低い音が出る仕組みを考えることができる。
- ・演奏する楽器を知り、音列に沿って並んで音を鳴らすことができる。

2 生徒について

- ・教師の話を目撃して聞くことができる。また、指示のとおりに行動することができる。
- ・歌唱や鑑賞、身体表現など、どの単元にも意欲的に取り組む生徒が多い。
- ・創作活動や話し合いでは、発言する人のみで進めてしまうことがある。

3 指導計画

- 第1回 11月29日 : 様々な楽器の音が出る仕組みを知る。楽器に触れる。(本時)
- 第2回 12月6日 : トーンチャイム、ハンドベルを使った旋律の演奏。
- 第3回 12月13日 : トーンチャイム、ハンドベルを使った旋律の演奏。
- 第4回 12月20日 : 2学期の学習活動の振り返り。

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

- ① 主体的な学びについて
 - ・ワークシートを用いて、個人で考えをまとめる時間を設定する。
 - ・自分が担当した楽器の音を鳴らすことができる。
- ② 対話的な学びについて
 - ・音が出る仕組みをグループで考えて発表し合い、意見をまとめる時間を設定する。
 - ・仲間で相談し合って演奏する音を決めたり、音列順に並んだりする時間を設定する。
- ③ 深い学びについて
 - ・音が鳴る仕組みについて自ら想像し、実際に体験することで理解を深める。

5 期待できる指導の効果

- ・主体的に考え、発言できる力を身に付けることができる。
- ・自分の役割を理解し、他者と協力して物事を達成する力を身に付けることができる。

※ 授業を振り返って

教師の問いかけに対して、生徒達が個人で答えを考え、さらにグループとして考えを深めていく姿が見られた反面、話し合いに設定した時間が少なく、対話的な学びについてはやや生徒同士の話合いが薄くなってしまったように感じた。対話的な学びを深めるためには時間にゆとりをもって生徒達の対話する時間を多めに設定する必要があることが分かった。

STの生徒に対する関わり方を一部訂正し、話し合いを巡回するのではなくあえてグループの一員として話し合いに参加するように設定した。その結果、生徒達の話合いに対する緊張がほぐれ、特に個人で考える場面はSTの言葉掛けがグループの中に入ることで強化され、全員が自分の意見をワークシートに書き出してから、話し合いに参加することができた。しかし、一方で話し合いに掛ける時間が少なかったため、話し合いの進行をSTに頼らざるを得ないような場面が発生してしまった。1問目はSTが先導し、2問目は生徒主体に活動ができるように多めに時間を設定して取り組ませるなどの工夫が必要であると感じた。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・集合 ・挨拶 ・本時の学習内容について 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に必要な道具をもって集合する。 ・農業科の日直が挨拶をする。 ・学校祭、音楽発表の振り返りを口頭で行う。 ・本時の活動内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に必要な道具を予め準備しておく。 ・生徒が姿勢を正しているか確認し、挨拶をする。 ・学校祭、音楽発表の振り返りを口頭で行う。 ・本時の学習内容を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に必要な道具を予め提示し用意するように伝える。 ・MTとともに周囲を確認し、挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイル ・筆記用具
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・展開1「高い音と低い音」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを受け取る。 ・グループに分かれる。 ・ピアノの音を聴いたり、映像を見たりして音の高さの違いを知る。なぜ男性と女性で声の高さが違うのかを考え、ワークシートに記入する。 ・<u>記入したワークシートを基に、グループで考えをまとめる。</u> ・代表者は発表し、発表が終わったら聞いている生徒は拍手する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布する。 ・グループを発表し、分かれて座る。 ・音には「高い音」と「低い音」があることを説明し、「なぜ男性と女性では声の高さが違うのか」について生徒が考える時間を設ける。 ・グループに分かれてワークシートを基に自分の考えを出し合い、話し合いをまとめる時間を設ける。 ・考えた意見を発表する時間を設ける。発表者に対して拍手をするように確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない生徒がいれば声を掛けて誘導する。 ・生徒の間を巡回し、答えに迷っている生徒がいたときには一緒に考える。 ・話し合いが滞る様子が見られたときには教師が意見のまとめ方を助言する。 ・生徒の発表を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・ピアノ ・PC ・TV ・ホワイトボード

	<p>・展開2 「同じ性別で声の高さが違う理由」</p>	<p>・設問の答えをまとめる。</p> <p>・映像を見て、「ソプラノ」や「アルト」など、同じ性別でも声の高さが違うことを知る。なぜ、同じ性別で声の高さが違うのかを考え、ワークシートに記入する。</p> <p>・<u>記入したワークシートを基に、グループで考えをまとめる。</u></p> <p>・代表者は発表し、発表が終わったら聞いている生徒は拍手する。</p> <p>・設問の答えをまとめる。</p> <p>・「高い音」や「低い音」が出る仕組みを知り、ワークシートにまとめる。</p> <p>・楽器の特徴を知り、楽器が大きくなると「低い音」が出ることを知る。</p>	<p>・設問の答えをワークシートにまとめる。</p> <p>・「男性」や「女性」の中でもそれぞれ声の高さに違いがあることを説明し、「なぜ、同じ性別で声の高さが違うのか」について生徒が考える時間を設ける。</p> <p>・グループに分かれてワークシートを基に自分の考えを出し合い、話し合いをまとめる時間を設ける。</p> <p>・考えた意見を発表する時間を設ける。発表者に対して拍手をするように確認する。</p> <p>・設問の答えをワークシートにまとめる。</p> <p>・「高い音」や「低い音」が出る仕組みについて再度確認する。</p> <p>・トーンチャイムという楽器について説明し、楽器の特徴を知る。</p>	<p>・正しく記入ができていないか確認する。</p> <p>・巡回し、答えに迷っている生徒がいたときには一緒に考える。</p> <p>・話し合いが滞る様子が見られたときには教師が意見のまとめ方を助言する。</p> <p>・正しく記入ができていないか確認する。</p> <p>・トーンチャイムの配布を手伝う。</p>	<p>・ワークシート</p> <p>・PC</p> <p>・TV</p> <p>・ホワイトボード</p> <p>・ワークシート</p> <p>・トーンチャイム</p>
	<p>・展開3 「鳴らしてみよう」</p>				

		<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士で話し合っ<u>て音階順に並び、音を鳴らしてみる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器をもち、仲間同士で相談して音の低い順に並んで、音を鳴らしてみるように指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 迷っている生徒がいるときには様子を見て声を掛ける。 	
<p>整理 10 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り 本時のまとめ 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用いて、本時の授業で分かったことを振り返って記入する。 音の高さや低さ、音の出る仕組みについて学んだことを確認する。 農業科の日直が挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに本時の振り返りを記入するように指示する。 楽器の大きさや長さ、性別や体の大きさで音の高さが変わることを再度説明する。 生徒が姿勢を正しているか確認し、挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回し、記入に迷っている生徒がいたら言葉掛けをして一緒に考える。 MTとともに周囲を確認し、挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	器楽 (高い音、低い音ができる仕組みを知ろう)	生徒	1学年 生徒 21 名
		場所	音楽室
日時	平成 30 年 11 月 29 日(木)3校時	指導者	MT:石田 ST1:外山 ST2:高山 ST3:津村 ST4:亀田

① 主体的な学びについて

高い音、低い音が出る仕組みを学ぶために、「なぜ、女性と男性で声の高さが違うのか」、「同じ性別同士でも、なぜ声の高さが違うのか」の2点について考える学習を行った。グループのSTの言葉掛けによって、生徒全員が自分の考えをワークシートに記述することができた。MTの方から「クイズだと思って答えを考えてみよう」、「これから教える内容なので間違ってもいいです」と言葉掛けをして、STもグループの中で同様に言葉掛けを続けた結果、初めは自分の考えを書くことに手が止まっていた生徒も、最終的には自分の考えを記述することができた。人の声という身近な題材について考えることは、生徒達にとっても発想を膨らませやすかったのではないかと感じた。

② 対話的な学びについて

グループに分かれて一人一人の意見を出し合い、最終的に一つに結論をまとめるという形で対話する時間を設けた。個人の意見がしっかりと出ていた分、話し合いに時間が掛かり、結果として話し合いの印象が薄くなってしまった。また、STがグループの中に入って話し合いを進めたが、話し合いに設けた時間が少なかったため、STに進行を頼らざる終えなくなる場面があった。

対話的な学びを深めるためには、生徒達が十分に話し合いをすることができるように時間を設ける必要があることが分かった。今回は5分間と設定して話し合いを行ったが、結果的に10分間でぎりぎり話をまとめている印象であった。

③ 深い学びについて

映像を見ながら女性と男性の声の高さの違いを確認した。また、ピアノの音を聴いて高い音と低い音の違いについて確認をした。具体的に映像を見たり、楽器の音を聴いたりしたことで、低い音と高い音の違いを意識したり、興味関心を引き出したりすることができたと感じる。実際に音階に並んで楽器を鳴らす計画であったが、話し合いに時間が掛かったため、音階順に並んで音を出すには至らなかった。しかし、配布された楽器を自由に鳴らしたり、トーンチャイムの一番低い音と一番高い音の楽器の大きさや長さを比較したりすることで、高い音、低い音が出る仕組みについて学びを深めることができた。

④ STの活用の仕方について

指導案では、STはグループの生徒の間を巡回し、分からない生徒に対して言葉掛けをすることとしたが、授業ではSTもグループの中に入って話し合いに参加することと訂正した。理由としては、STが生徒と一緒に授業に参加することで、教師の姿を見て話し合いの仕方やホワイトボードの書き方、発言の仕方を学ぶことをねらいとしたからである。STはワークシートの答えを初めから知っている状態で話し合いに参加し、あえて問い掛けに対する答えを外して生徒の前で発言するように事前に打ち合わせを行った。間違った発言をしても良いということを生徒に学んでもらうことをねらいとしており、生徒が自由な発想をもって考えることができるように設定した。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	器楽 (高い音、低い音がでるしくみを知ろう)	生徒	1学年 生徒23名
		場所	音楽室
日時	平成30年11月29日(木) 3校時	指導者	MT:石田 ST1:外山 ST2:高山 ST3:津村 ST4:亀田

① 主体的な学びについて

目標を「高い音、低い音が出る仕組みを考えることができる」と設定し、「なぜ男性と女性では声の高さが違うのか」「なぜ同じ性別で声の高さが違うのか」という観点で生徒が個人で考える時間を設けた。まず個人でワークシートに記入するという指示があったため、全員が自分の意見をもって記述することができた。3つのグループに分かれて取り組んでいたため、STも各グループに分かれて生徒の様子を見ることができ、必要な場合に言葉掛けすることができた。

② 対話的な学びについて

グループで、自分の意見を発表し、グループ内で一つの意見にまとめ、全体の前で発表するという学習を行った。まず、一人ひとりが自分の意見を発表することができ、仲間の意見を聞くことができて良かった。話し合いの時間が短かったことと、普段馴染みがあまりない新しく学習する内容だったため、意見を深めたり仲間の意見に質問したりするなど幅広く取り組むことはできなかったが、発表する姿勢や聞く姿勢が良くできていた。

③ 深い学びについて

実際に映像を観ることで、生徒の興味を引き出すことができ、映像を集中して観ている様子がかがえた。また、高い音と低い音を実際の楽器から聴いたことで、ワークシートで学んだことからさらに深いイメージをもつことができた。

④ STとしての動き方について

グループに入って生徒と一緒に活動し、意見を伝えたり聞いたりした。一人ひとりが発表しやすい雰囲気をつくることができ、間違っても良いから発表しようという意識がもてるよう助言を行った。グループによっては、生徒だけで話し合いを進めることが難しい様子で、STは必要とする場面を見極めて支援していくべきだと感じた。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	器楽 (高い音、低い音がでるしくみを知ら う)	生徒	1学年 生徒23名
		場所	音楽室
日時	平成30年11月29日(木) 3校時	指導者	MT:石田 ST1:外山 ST2:高山 ST3:津村 ST4:亀田

① 主体的な学びについて

グループでの話し合いの前に自分の考えを書く時間を設定したことで、全員が自分の考えをもって話し合いに参加することができた。基本的には、生徒主体で話し合いを進めることができた。一方でグループの実態によっては、発言者が限定されたり、生徒主体の話し合いであるためにすべての意見が取り上げられにくくなる場面もあった。そういった場面でグループに入っているSTとしての効果的な言葉掛けを学んでいきたい。

② 対話的な学びについて

グループ内での意見をまとめ、それをグループごとに発表することでお互いの意見を話したり聞いたりする対話の時間が設定されていた。短い話し合いの時間だったが、全員が意見を伝えることができた。

③ 深い学びについて

実際の楽器の音を聞いて確認したことで、話し合いの内容を体験的に確かめることができた。実際の楽器を使用することで生徒達も興味をもってMTの話聞くことができていた。

④ STとしての動き方について

STもグループの一員として話し合いに参加した。また、その中で意図的に間違った答えを言うことで、自信のない生徒も発言しやすい雰囲気を作ることを目的として話し合いに参加した。話し合いに消極的な生徒にとって、この設定があったことで、間違った答えや見当違いなことを発言しても大丈夫なんだと安心できる雰囲気作りをすることができた。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	器楽 (高い音、低い音がでるしくみを知ろう)	生徒	1学年 生徒23名
		場所	音楽室
日時	平成30年11月29日(木) 3校時	指導者	MT:石田 ST1:外山 ST2:高山 ST3:津村 ST4:亀田

① 主体的な学びについて

器楽演奏をする前に、高い音、低い音が出る仕組みを学ぶために、「なぜ、女性と男性で声の高さが違うのか」、「同じ性別同士でも、なぜ声の高さが違うのか」について考える学習を行った。なかなか書き始めるのに時間がかかる生徒もいたが、言葉掛けをすることで書き始めることができ、全員の生徒が自分の意見を記述することができた。

② 対話的な学びについて

なぜ、「女性と男性で声の高さが違うのか」、「同じ性別同士でも、なぜ声の高さが違うのか」について、グループに分かれて一人一人の意見を出し合い、最終的に一つに結論をまとめるという形で対話する時間を設定していた。話し合いの時間が短く、意見を深める学習ではなく、意見を発表する場面となった。しかし、生徒全員が自分の意見を伝えることができた。

③ 深い学びについて

具体的に映像を見たり、楽器の音を聴いたりしたことで、低い音と高い音の違いを意識して、興味・関心を引くことができていた。また、映像を見たり、楽器の音を聴いたりしたことで、MTから説明を受けた内容をよりイメージすることができた。

④ STとしての動き方について

生徒と一緒にグループで活動し、正解とは異なる意見を教師が言うことになっていたが、生徒が正解を答えられていたので、特に行う必要がなかった。また、頻繁に話し合い活動を行っているため、教師がファシリテーターをしなくても、生徒同士で話し合いを進めることができた。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	器楽 (高い音、低い音がでるしくみを知ろう)	生徒	1学年 生徒23名
		場所	音楽室
日時	平成30年11月29日(木) 3校時	指導者	MT:石田 ST1:外山 ST2:高山 ST3:津村 ST4:亀田

① 主体的な学びについて

グループの話し合いやワークシートの記入など指示に従って授業に参加していた。また、男性と女性の歌手の声を聞いた感想を交流することができた。生徒は、小さい頃から映像に慣れているの生徒なのでDVDの視聴は効果的だった。

② 対話的な学びについて

中学校時代までの経験や入学から本日まで、対話学習の積み重ねの成果もあり、MTの投げかけた疑問に対し、積極的に発言できていた。また、グループ交流に分かれたとき、1人ずつの発言の順番を待つことができ、相手の意見を否定しないという学年の取り組みが出ていた。

③ 深い学びについて

DVD視聴したことで、生徒がイメージをつかむことができていた。また、他の班の意見を聞いて考えを深めることができた。

④ STとしての動き方について

担当グループを巡回しながら助言し、工夫して取り組めるように努めたが、手助けしすぎた場面があり、適切な助言だったのかを反省点として次回に生かす。

授業参観者アンケート

授業者：石田 浩子
「主体的・対話的で深い学び」についての評価
<p>○1 学年より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントで実際に映像を見て、音を聞いた後に違いを考えるので考えやすかったと思います。 <p>「主体的な学び」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で何かを考えさせるときは、個人で考えるようにさせないと周囲の答えを見たり、話をしながらまとめてたりしている生徒もいたため、その生徒自身の学びにはなっていないと感じました。 <p>「対話的な学び」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループのメンバー全員が意見を言うことはできていたと思います。しかし、それをまとめる活動になると、発言する人が決まっていたようにも見えました。そのため、グループ編成についてですが、個人の役割や責任をもたせるのであれば、少人数のグループ編成の方が良かったと思います。 <p>○2 学年より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかり個々の意見を出せていました。教師以外にもグループのまとめ役として仕切る生徒もいました。 ・ワークシートを活用し、自分の考えを発表しやすい内容でした。
授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）
<p>○1 学年より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見集約は生徒に任せてもいいのかと思いました。 ・グループに分かれるときに、STが入っているため、役割が明確で良かったと思います。 ・今回の学びとして、普段何気なく出している声も楽器と同様であることのつながりをもたせるためには、分かりやすい内容であったと思います。 ・ワークシートについてですが、今回所々穴埋め問題がありましたが、ワークシートの下にすぐ答えが書いてある問題もあったため、それを見て答えていた生徒もいたかもしれません。 <p>○2 学年より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音について理解できていた生徒が多く、流れは良かった。内容が盛りだくさんで消化できない部分もあったので、計画段階での精査も必要かなと感じました。授業の雰囲気は大変良かったです。 ・グループによっては、どんどん意見を出せる生徒もいますが、考えの浮かばない、または、発信しにくい生徒には、適切にSTのサポートがされていました。 ・発表者を決めるとき、すぐに「やります」と周りの声を聞く前に手を挙げた生徒がいましたが、「他の人の意見も確認してからだと良いね。積極的にやろうとすることは素晴らしいことだよ。」とSTがフォローしていた点が良かった。 <p>○管理職より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意見をホワイトボードに書き出して情報共有をしていたことで、生徒は他者の意見を参考に考えることができ、より考えやすくなっていました。 ・グループごとに出た意見をMTが整理していても良かったのではないかと思います。

1 学年 美術科 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	水彩画(玉ねぎ)	生徒	1学年 生徒 23名
		場所	美術室
日時	平成 30 年 9 月 18 日(火) 5~6校時	指導者	MT:泉谷 ST1:津村 ST2:小林

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・ 普段あまり目にしないところに着眼することによって、観察力を高めることができる。
- ・ 物体の影を認識し、混色の技法を使うことができる。

(本時の目標)

- ・ 玉ネギの色により近くなれるように仲間と考えることができる。

2 生徒について

- ・ 4人グループでの学習では、水彩画の得意な生徒が中心となり他の生徒が自分の考えを発言することが多くなる。
- ・ 描き方が分からないときや自分のイメージどおりに描けないときにアドバイスを指導者に聞くことが多い。
- ・ 話し合いでは、発言する人のみで進めてしまうことがある。

3 指導計画

- 第1回 7月17日 : 水彩画「とうがらし」(着色まで)を題材にした学習1回目
 第2回 7月24日 : 水彩画「ピーマン」(デッサンのみ)を題材にした学習2回目
 第3回 9月11日 : 水彩画「玉ネギ」(デッサンのみ)を題材にした学習3回目
 第4回 9月18日 : 水彩画「玉ネギ」(着色まで)を題材にした学習4回目(本時)
 第5回 9月25日 : 水彩画「玉ネギ」(単元反省)を題材にした学習5回目

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

- ① 主体的な学びについて
 - ・ これまでの水彩画の知識を基に一人で着色をする時間を設定する。
- ② 対話的な学びについて
 - ・ ①で描いた自分の絵についてグループのメンバーからアドバイスをもらう時間を設定する。
- ③ 深い学びについて
 - ・ 今までは、指導者の技術的なアドバイスと自分の感性で描いてきたが仲間からのアドバイスを取り入れることで、多面的に題材を捉えることができるように設定する。
 - ・ 話し合いの際に自分が納得できるアドバイスができるようにアドバイスについて質問や確認をするように指示する。

5 期待できる指導の効果

- ・ 自分には考えつかなかった見方や考え方があることを知ることで物事を別な方向から見たり、考えたりすることができるようになり、思い込みを防ぐことができる。
- ・ 仲間からアドバイスをするという経験をする中で、自信をもてるようになる。
- ・ 情報の取捨選択ができるようになり、人の意見を取り入れることができるようになる。

※ 授業を振り返って

「深い学び」の研究ということで今回初めて生徒同士でアドバイスしあうということをやってみた。アドバイスする視点は事前に伝えてあったが、予想以上に効果的なアドバイスをしていた。生徒の力を過小評価していたことを思い知らされた。そこで、3学期には研究の続きとしてリーダーを設定して、生徒間でのコミュニケーション力を高めることを考えている。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 授業の目標 着色のポイント 	<ul style="list-style-type: none"> 農業科日直が挨拶をする。 本時の授業の目標を確認する。 着色のポイントを聞く。 板書をワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 日直に指示を出す。 美術ファイルを開かせ、前時にたてた単元の目標を確認させる。 着色のポイントを板書に描きながら説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 気を付けをしているか、机上が整理されているかを確認する。 美術ファイルを開いていない生徒には、確認を促す。 板書していない生徒に書くように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術ファイル ワークシート
展開 80分	<ul style="list-style-type: none"> 玉ねぎ着色 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の1枚目に一人で着色する。 グループで一人ずつアドバイスを受け、それについて話し合う。 アドバイスをワークシートに書き込む。 話し合いを基に2枚目の画用紙に着色する。 1枚目と2枚目を比べて作品発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の1枚目に一人で着色させる。 <u>グループごとに話し合わせる。</u> アドバイスをワークシートに書き込ませる。 前時の2枚目に一人で着色させる。 1枚目へのアドバイスを紹介させて2枚目に参考にしたことを説明させて作品発表をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視をしながら着色・混色が進まない生徒に助言をする。 机間巡視をし、質問されたときには答える。 生徒の様子観察をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時1枚目の画用紙 ワークシート 前時2枚目の画用紙
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> 片付けや振り返りをする。 次回の授業内容を知る。 農業科日直が挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 片付けや振り返りをさせる。 次回は、単元反省をすることを伝える。 日直に指示を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子観察をする。 気を付けをしているか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術ファイル

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	水彩画（玉ねぎ）	生徒	1学年 生徒 23 名
		場 所	美術室
日 時	平成 30 年9月 18 日(火)5～6校時	指 導 者	MT:泉谷 ST1:津村 ST2:小林

① 主体的な学びについて

自分のセンスで水彩画を描くことができるように第1回目の授業で、題材と同じくらいの大きさの画用紙に着色のポイントと影の描き方を指導してから「とうがらし」を描かせた。第2回目の授業では、デッサンのポイントを指導してから「ピーマン」を描かせた。生徒によっては、指導されたポイントを取り入れて描くことができた生徒、ポイントを一切取り入れず中学校の知識で描いた生徒、題材をよく見ないで頭だけで描いた生徒もいたが、今後必要である問題を解決する力と視点を育むためのきっかけの一つになったのではないかと考える。

② 対話的な学びについて

事前にルールを設けることで、グループの全員が意見を言いやすい環境を作ることができたのではないかと考える。実際にアドバイスをしたり、されたりすることで、自分の見方や相手からの見られ方について再度知るとともに、それを受け止め、自分の作品に反映できる具体的な手立てを考えるきっかけになったのではないかと考える。

③ 深い学びについて

美術では、今まで指導者の技術的なアドバイスと自分の感性で描いてきたが、今回の授業を通して、初めて友達からのアドバイスを受け、それを自分の作品に取り入れるという今までにない経験をすることで多面的に題材を捉えることが、深い学びにつながっていくのではないかと考える。生徒同士のアドバイスも的確とまでは言えないが、的を射たものもあり生徒の力の伸びしろを予想できなかった。こちらの働きかけ次第で深い学びと成長が得られるのではないかと考える。

④ STの活用の仕方について

今回の授業では、STに話し合いのヒントを出してもらうことで生徒同士のアドバイスがスムーズに行くことができた。そして、生徒がそのアドバイスを受けて、自分の作品に取り入れてみたいものを選択して作品を仕上げることができたのではないかと感じる。その一方で技術的なアドバイスについては、振り返りの時間にMTから指導を入れて補強することが必要であった。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	水彩画（玉ねぎ）	生徒	1学年 生徒 23 名
		場 所	美術室
日 時	平成 30 年9月 18 日(火)5～6校時	指 導 者	MT:泉谷 ST1:津村 ST2:小林

① 主体的な学びについて

これまでの水彩画の知識を基に一人で着色をする学習内容のときには、主に担当している家庭総合科の生徒の机間指導を行いながら、生徒の進み具合を把握した。美術、特に絵を描くことが苦手な生徒は、混色や着色を進められない状態であったため支援を行った。しかし、主体的に学ぶために過度な支援は行わないように生徒と対話し、生徒自身に考えさせる場面を作りながら支援を行った。適度な支援を行っていくためにも、日頃から生徒の様子を観察し、どの場面で支援や助言を行うか学んでいく。

② 対話的な学びについて

一人で着色した作品にグループのメンバーからアドバイスをもらう時間では、担当する生徒とグループの様子観察を行った。コミュニケーションの苦手な生徒は発言ができず困っている様子が見られたため、グループへ全体で協力して進めるための問いかけと個別に選択肢を与えつつ意見を引き出すような助言を行った。教師の意見がそのまま生徒の発言にならないように気を付けて行い、生徒自身の考えを導き出すことを心掛けて行うことができた。

③ 深い学びについて

生徒は、仲間からのアドバイスを受け入れて次の作品に生かすことがおおむねできていたが、美術、特に絵を描くのが苦手としている生徒は、アドバイスをどのように作品に生かせばよいのか分からない様子が見られたため、ワークシートへ書き込んであるアドバイスを基に具体的な助言を行った。生徒自身が考えて作品に生かすことができるように助言をなるべく少なくしたが、創作が進まない場面も見られた。今後は、MT と適切な支援について検討して指導に当たっていきたい。また、アドバイスを伝えた生徒にも相手に伝わりやすい言葉を選べるように適切な支援を行っていきたい。

④ STとしての動き方について

机間指導をしながら助言を行ったが、助言を行うタイミングに迷うことがあり、適切なタイミングで助言ができたのか検討する必要がある。生徒の活動状況に合わせ、助言の内容や回数を調整する必要がある。今後は、どのような助言をするべきか MT と細かく確認していく。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	水彩画（玉ネギ）	生徒	1学年 生徒 23 名
		場 所	美術室
日 時	平成 30 年 9 月 18 日(火)5～6校時	指 導 者	MT:泉谷 ST1:津村 ST2:小林

① 主体的な学びについて

自分の作品を発表する時間が設けられていた。技法だけに捉われず、完成までの工程を確認することができていた。また、これまでの取り組みの成果が現れており、必要以上に言葉掛けをしなくても生徒は主体的に学習に取り組んでいた。

② 対話的な学びについて

仲間のアドバイスを受けることで、作品の良い点や描くコツを交流できたため、よりよいものに仕上がった。

③ 深い学びについて

立体の玉ネギを平面に描き写すのは容易ではないため、技法やイメージを生徒同士が助言することで交流ができたと考える。

④ STとしての動き方について

柔軟な発想と自由な技法で玉ねぎを描けるように机間巡視をした。一方で、助言するタイミングが適切だったのかを考え、今後に生かす必要があると考える。

作業中に MT から指示があるため、集中できず、現在の取り組みが不明瞭になる生徒がいた。そのため、画面構成や着色の工夫が分からない生徒へ ST として支援しすぎた場面があった。

短時間に 2 枚の水彩画をデッサンから着色までを行った。デッサンを時間内に完成させたいため、不満を抱えたり、理解できたりしないまま取り組み始めた生徒がいたので、工程を確認しながら進めるように助言した。

授業参観者アンケート

授業者： 泉谷 好子

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○1 学年より

- ・着色のポイントの①「混色で塗る（必ず色を混ぜる）」という決まりがあることで、自分で考え実践してみるという主体的な学習になっていました。
- ・アドバイスを受けて改善した成果が、実際の作品に表れていたことが対話的な学びの成果として分かりやすく実感できました。作品自体も、一枚目より二枚目の方が複雑な色選びをできている生徒がいたこともアドバイスが生かされていることや、仲間の作品を見たことによる成果だと感じました。
- ・すべてのアドバイスを受け入れるのではなく、自分に必要なアドバイスを選択して次の作品に生かすということで主体性のある選択ができるようになっていたことが良かったと思います。
- ・発表の大枠の内容が決まっているところに自分の考えを記入する形になっていたおかげで、普段文章を考えるのが苦手な生徒も大事な部分は自分の言葉で発表することができていました。生徒の実態に合った支援だったと思います。また、全員が自分の言葉で自分の作品を発表できたことが、主体的な学びであったということの成果であると感じました。
- ・生徒同士でアドバイスを出し合い、それを自ら選択して次の玉ねぎを描きあげるまでの一連の流れがとても良かったと思います。ただ、アドバイスをもらうときに、取り入れたいアドバイスのみを記入することになりました。しかし、それぞれが感じたことをアドバイスという形で伝えたのであれば、時間もない中ではありましたが、全員分のアドバイスを記録させても良かったのかと思います。そして、その上で自分は何を取り入れるかを考えることで主体性が生まれてくるのではないかと感じました。

○2 学年より

- ・アドバイスよりも良い所を発表する方が言いやすそうになると感じました。
 - ・一人でよりも仲間の作品を見たり、話を聞いたりしてからの方が作業が進むと思います。
- ※美術以前に、「主体的・対話的」に深く学ぶための基礎的な力が身に付いているかという課題観察して感じたのは、「生徒の言語表現力の弱さ」です。

- ① 自分の作品の特徴などを短時間でまとめ、言葉で表現できない生徒が多くいました。発言内容も先生の補助発問を受けて、何とか単語で答えることができる状態でした。
- ② 話し合いの進め方が身に付いていないため、先生への SOS 視線が飛び交っていました。
- ③ 他者の作品の悪い所などの説明はなんとなくできていましたが、「自分の作品の良い点」、「それを自分の作品に取り入れて制作する」となると、ハードルが高いように感じました。

※「対話的」側面では、散発的に机のメンバー間でのアドバイスの伝え合いがありました。ただし、深め合うレベルまでには至っていない、という感じがしました。

○3 学年より

- ・決まりを提示され、取り入れることで、自ら考える力につながり主体的な活動ができていました。
- ・教師や仲間からの助言を受けて改善した成果が作品に表れており、伝える側と聞く側の対話的な学びの成果が出ていました。
- ・全員が前に出て自分の作品を発表するという機会を設けたことが良かったと思います。発表を通して「伝えよう」という主体的な学びができていました。
- ・それぞれの班で話し合いをすることができていたと思います。また、1年生なので教師の促しありき

なところがあるとは思いますが、スムーズに話し合いをしていたと思います。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

○1学年より

- ・話し合いなど対話的な学びが有効に使われており、それが結果として見える授業でした。しかし、授業時間から考えると対話を増やすことで、本来美術科でメインとなる作品作りでじっくりと時間をかけて色を塗ることなどの時間が不足していたため、焦って作品を仕上げている生徒がいました。もう少し時間で焦ることなくじっくりと描かせてあげたいと感じる場所もありました。しかし、普段から泉谷先生が美術科の中でも働く力とつなげて学習を組み立てていることもすごく大切なことだと理解しています。
- ・生徒の発言で「赤に茶色を混ぜたら何色なんだろう？」などの声があったので、混色というところに着目してそういった知識や好奇心を生かす授業も面白そうだなと感じました。
- ・仲間の作品にアドバイスする時間は、どんな視点で絵を見るかという提示がいくつかあれば、意見を言うことが苦手な生徒も発言しやすかったかもしれません。
- ・授業を始めるにあたって、生徒に対して今日のポイントを黒板に書いていたと思いますが、可能であれば、それを指導案にも書いてあるとより見る側としては分かりやすかったと思います。
- ・MTからの指示があるときは、生徒を全員向かせるなどの対応が必要かと思います。途中からはそのような言葉掛けがあったので、授業の初めにルールとしてあるとより指導はしやすくなると思いました。
- ・STの動きとして、助言をするとありましたが、そのまま答えを出してしまっていることがあったかと思います。答えを出してしまうと、生徒が考えることをやめてしまうので、あくまで助言やゴールに導くためのパスと考えていただければと思います。

○2学年より

- ・作業するときと話を聞くときのメリハリがありました。
- ・STがいる場所が偏っていたと思います。（自分のホームルームの指導を中心にとということだとは思いますが、農業科はほぼ教員が付いていませんでした。）
- ・生徒一人一人に良い点やアドバイスを伝えていました。
- ・生徒が自分から質問しやすそうな雰囲気でした。

○穏やかな雰囲気の中で進んだので、落ち着いて制作できていました。泉谷先生らしい授業展開だったと思います。泉谷先生、お疲れ様でした、ありがとうございました。

＋ 話を聞く生徒の姿勢が良く、今後の指導の時の基準にしたいと思います。（←「1年生は出来たよ」）。

－ プリントをしまう指示が徹底されていませんでした。…机の上に放置していた生徒もいました。

－ 作業時間の変更が多かったです。…始めから長めに時間をとっておいて、早く終わったら短縮でもいいかと思えます。

その上で時間の見通しがないと困る生徒もいるので、黒板に時間の流れを記載するとよいのではないかと思います。

－ 濃淡の具体性がわかりにくいです。…どれくらいの濃さが「濃い」「薄い」になるのか確認すると良かったです。

試し塗りした用紙を使えば「基準」になったのではないかと思います。

－ アドバイスの視点が生徒に落ちきっていないように感じました。

・視点の例 ・色の濃さなのか ・筆遣いのストロークなのか

○3学年より

- ・全体的に、1学年の生徒は描写や彩色が上手だと感じました。また、教師や仲間の助言を聞き入れる姿勢も備わっており、「自分の作品を良くしよう」「仲間の作品をもっと良いものにしてあげよう」という意欲が感じられました。
- ・1枚ではなく、2枚描かせており、見るからに2枚目の方が配色など上手になっていました。生徒の力を引き出し、助言を取り入れるような授業づくりの成果が出ていると感じました。
- ・授業の流れを理解していない生徒が多く見られました。口頭での説明だと障がい特性で理解するのが難しいかもしれないため、黒板に流れを書くのであればもう少し工夫が必要かなと感じました。